

農作物技術情報 第6号 花き

発行日 令和4年 8月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんどう 花腐菌核病、黒斑病等病害虫の適期防除を行いましょう。
定植圃場や収穫後圃場も病害虫防除を継続しましょう。
- ◆ 小ぎく 白さび病、オオタバコガ等病害虫防除を徹底しましょう。
収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保しましょう。
- ◆ 共通 強風に備え、ネットと支柱を点検、補強しましょう。

りんどう

1 生育概況

盆需要期向けの早生種は、概ね需要期での出荷となりましたが、一部の地域では、開花の遅れがみられました。現在、中生種の出荷が始まっており、概ね平年並みの生育となっています。

病害虫では、県北地域において花腐菌核病の子実体（きのこ）の発生が確認され、防除開始時期を迎えています。また、黒斑病やオオタバコガの発生が増加しているほか、葉枯病、褐斑病、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類の発生がみられています。

2 栽培管理

(1) かん水

圃場が乾燥した場合は、引き続き通路かん水を行います。ただし、高温時の日中に長時間通路が滞水しないよう注意します。

(2) ネット管理

茎が曲がらないよう随時ネットの位置を調整します。併せて、強風に備え、ネットと支柱を点検、補強します。

(3) 残花処理

病害虫防除等を目的として、収穫後圃場の花茎除去（花の着いている茎の部分の折り取り）を行います。この作業は、花腐菌核病の防除に特に有効です。

3 病害虫防除

(1) 花腐菌核病

夏の暑さを経過して気温が低下すると、圃場に病原菌の子実体（きのこ）が発生し（写真1）、胞子が花蕾に付着して感染します。また、冷涼地ほど早く発生する特徴があります。青花や紫花品種では感染すると花弁が鮮やかなピンク色に変色しますが（写真2）、桃花や白花品種では淡褐色となり、花色によって病斑の色が異なります。

県北部では子実体の発生が確認され、防除開始時期となっています。また、平年の防除開始時期は、県北部及び山間地域で8月第5～6半旬、県中部以南の平坦地で9月第1～2半旬となっていますので、今後各地域の普及センターの情報等を参考に防除を開始します。併せて、感染・伝染源となる残花の除去を徹底します。



写真1 株元に形成された子実体(きのこ)
(傘の直径は大きいもので5mm程度)



写真2 花腐菌核病発生花(右側)
(左の無病花と比べてピンク色に変色)

(2) 葉枯病

秋季にも発生が拡大する場合がありますので、降雨前の予防散布を継続します。収穫前圃場と合わせ、収穫が終了した圃場や新植圃場の防除も行います。

(3) 黒斑病

発生が増加してきています。去年は8月以降に多発しましたので、今後の発生状況に注意が必要です。葉の傷口等から容易に感染するため、台風の接近後に感染が拡大した事例があります。治療は困難ですので、有効薬剤による予防散布を継続します。

(4) オオタバコガ

全域で発生がみられています。花蕾内部を好んで食害するため、虫糞を目安に見つけ次第捕殺します。薬剤防除については、一般に老齢幼虫には防除効果が劣るため、発生初期に有効薬剤を散布します。

(5) ハダニ類

全域で発生がみられています。今後、高温傾向で推移した場合、例年よりも遅い時期まで発生する可能性があります。発生状況によっては追加散布を検討しますが、同一系統薬剤は年1回の使用を基本とします。

小ぎく

1 生育概況

8月咲き品種の出荷は、平年よりやや遅く、盆需要期以降に出荷となる品種もみられています。9月咲き品種は着蕾が始まり、概ね平年並みの生育となっています。

病害では、半身萎ちょう病などでの萎ちょう症状の発生が多くなっています。虫害では、オオタバコガの被害が増えています。また、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類、カメムシ類の発生が継続してみられています。

2 栽培管理

(1) かん水・排水対策

湿害に弱いため、大雨後は排水対策が重要です。圃場内が冠水した場合は、溝切り等によって速やかに排水を促します。一方で乾燥が続く場合は萎れる前にかん水します。

(2) ネット管理

りんどうと同様、茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風に備え、ネットと支柱を点検・補強します。

(3) 収穫後管理

伏せ込みに利用する株は、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際5～10cmのところ台刈りをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で3kg/10a程度施用します。マルチ栽培では、台刈り後にマルチを除去して土寄せし、生育を促すのが基本ですが、除草労力を考慮して決めます。

なお、かき芽で伏せ込む場合は、台刈り後に発生した側枝に土寄せをして側枝の発根を促します。

3 病虫害防除

(1) 白さび病

夏季高温時は一時的に発生が少なくなりますが、今後気温の低下とともに再び発生が増えてきます。収穫前圃場はもちろんですが、収穫後圃場も継続して薬剤散布を行います。

(2) オオタバコガ

全域で発生がみられており注意が必要です。防除のポイントはりんどうと同様ですが、着蕾期以降に発生した場合、中齢以降の幼虫は花蕾に潜り込んで食害していることが多いので、食毒作用のある有効薬剤を選択します(写真3、4)。



写真3 オオタバコガの蕾の潜入痕
(内部を食害)



写真4 オオタバコガの花(筒状花、子房部分)の食害

4 伏せ込み床の施肥について

同じハウスで何年も伏せ込みをしている場合、長年の肥料成分の蓄積(塩類集積)によって根が肥料焼けを起こし生育不良となる事例がみられます(写真5)。積極的に土壌診断を行い、処方箋に基づいた適正施肥を行います。また、塩類集積が過度に進行している場合は、土壌中の肥料成分を減らす(除塩)ことが必要となりますので、最寄りの普及センターまでご相談ください。



写真5 塩類集積による伏せ込み株の生育不良
※根の障害により養水分を十分に吸収できず、
葉の黄化や生育不良がみられる

次号は9月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。